



OKAYAMA

1998.9

vol. 15

2xxx年、日本はどうなるの!!
特集
少子化

いろいろなライフスタイル…

気づいてほしい

「生まない理由」、「生めない理由」

「子どもを生まない」「子どもを生む」
様々な選択をしたまったく立場の違う人達が、
ざっくばらんに座談会をしました。

岡山市女性情報プラザが 市役所北隣にオープン!!

- 愛称が決定しました。
- 図書・ビデオの貸出しや、ミーティングコーナーの
利用方法などなど…



[デュオ]



岡山市

いろいろなライフスタイル… 気づいてほしい 「生まない理由」、「生めない理由」

一人の女性が一生に生む子どもの数、合計特殊出生率は下がり続け、ついに昨年は1.39人を記録。人口を維持するのに必要な2.08人を大きく下回っています。

今年の厚生白書はこの現象について、「結婚や子育てに“夢”を持ってない社会になっているのではないか」と問題提起しています。“夢”を持ってない原因を、「役割分業社会」、母親におしつけられる子育て責任、不十分な子育て支援策などと、社会的・文化的に作られた性別・ジェンダーの視点から分析し、国民的な議論を求めています。

A 私の家族は夫と1歳6か月の娘です。共働きでフルタイムの看護婦ですが、夜勤のない外来なので続けられます。結婚して5年、初めの3年間は仕事をしなくて子どもはつくりませんでした。妊娠前に仕事がついたために退職していました。1年弱専業主婦をしてみて、仕事をしたい気持ちがフツフツと湧き上がってきたので復職しました。

子どもは院内保育園に預けているので安心です。以前から家事は夫と折半だったので、育児もきっと手伝ってくれると思ったから出産したという感じです。

それでも子育ては本当に大変です。延長保育や病児保育などの条件が整わないと、仕事を始めたくても始められないお母さんが多いと思います。保育料もすごく高いから、パートではあわないという話も聞きます。今、一番の問題は、子どもの調子が急に悪くなった時、私と夫のどちらが休むかと

いうことで、話し合っただけで都合をつけています。それもだめな時は友人に頼みますが、実家の近い人がうらやましいですね。

B 私は夫と2人で暮らしています。専業主婦です。子どもを持たない選択をしました。理由は2つあると思います。子どもを持ちたいという欲求がないこと、社会的条件や自然環境的条件に影響されている部分があること。

20代の頃は仕事はおもしろいし、他にやりたいこともあって時間が足りないくらいで、結婚や出産は全然関係ない世界のことでした。自分の日常生活のほとんどは職場、そこに結婚して子どもがいていきいきと働いている、そんなモデルになるような先輩女性がなかった、これは今思えばすごく大きかったですね。それと当時は結婚や主婦に対して良いイメージがなかったんです。

結婚した当初は互いの仕事の都合

で別居し、夫の海外赴任を契機に私は退職しました。帰国後岡山で希望のところへ就職できず専業主婦になりましたが、子どもが欲しいという気持ちは湧かなかったんです。私には仕事がないライフワークもない。何のめどもない状態で子どもを持ったら、私ができなかったことを子どもに期待して、私の代わりをさせようとするのではないかと。それでは自分も醜いし、子どももかわいそうだと思う。それが一番恐ろしくて、もし仕事があれば無理してでも生もうとしたかもしれないと思います。

また、食糧危機や環境悪化など、未来への不安感はすごく強かったです。子どもの世代が幸せに生きていけるのか。食糧不足と環境悪化を食い止めるには、地球人口は多過ぎる、子どもを欲しいと思わない人がいてもいいんじゃないかと思ったわけです。

C 僕は子ども2人と嫁さんの4



「デュオ」編集委員会では、もっと現状を知りたい、いろいろな立場の方のお話を聞きたいということで座談会を開きました。結婚、出産・子育てへのためらい、働き続けることの困難さ、今どのような状況があるのか、皆さんとともに考えたいと思います。(できるだけ本音で語っていただこうと、お名前は伏せています。ご了承ください)

- A** 共稼ぎ・子育て真っ最中
 - B** 専業主婦・生まない選択
 - C** 共稼ぎ・夫の立場
 - D** 企業の立場
- 進行 編集委員会

人家族で共働きです。僕は朝がゆっくりで夜は遅い、嫁さんは朝が早くて夕方は早いので、保育園には僕が連れていって迎えは嫁さん、掃除は僕と、お互い暗黙の了解です。

少子化といわれるけれど、**男は変わってなくて、女性の意識がずいぶん変わったんじゃないでしょうか。**結婚したくない、生みたくない女性が出てきた。男性は出産・育児に対して主体的になれない部分があると思います。妊娠・出産の苦労もあまりわからないですから。

ただ、親父の世代に比べれば男もけっこう家事をしていますよ。僕は結婚する時、共働きで同じように給料を貰うんだから、家事も同じようにしようと約束しました。今も一応守っているつもりです。

D 私は企業の立場ということでお話しします。現在は課長という役職です。仕事優先というわけじゃないんですが、たまたま未婚です。

わが社は育児・介護などの制度が一応全部ありますが、子育てと仕事を両立している人はまだいません。産休に入って復職せずに辞める方が多いんです。就職の際、こういう制度がある、子どもができて働き続けるのは大歓迎と言っていますが、果たして

どう対応できるかと考えた時、よほど男性の協力がなければ無理かなと思います。

男女雇用機会均等法で女性の職場は広がりましたが、育児と仕事を両方しては男性に後れる、だったら結婚や出産などせず自分の好きなことをしようということになるんじゃないでしょうか。女性はバリバリやるか、2・3年で結婚退職するかに分かれる傾向があります。

まず、**Bさんにお尋ねします。生む・生まないは、個人の生き方だと思いますが、生まないことについて周囲から何か言われませんか？**

B 夫は長男ですが、周りからどうしろ、こうしろと言われて悩んだことはありません。

A でも、一般的には言われるんじゃないですか。私が結婚して3年間子どもを作らないでいた時、周りから「体がどっか悪いんじゃないか」「ストレスが多いんじゃないか」「生む気がないんだらうか」とものすごく言われて。「結婚したら子どもを生むのが当たり前」「3歳までは母親の手で育てなければ誰が育てるんだ」とも言われました。

B 世間が、子どもを生むことを当たり前だと思っていることは感じます。生むことに理由はいらないのに、生まないことにはどうして理由があるんでしょう。

Aさんは今お子さんが1人ですが、2人目はどうされるのですか。

A 1人生むと次は2人目をどうするかという問題にぶちあたりますね。夫や親族たちはもう1人と言いますが、正直なところ私は今のままでいいと思っています。仕事をしやすい環境をこれ以上崩したくないというのもあります。

B 私は生まないことを選択しましたが、Aさんのように「欲しくても2人目は生めない」という人が抱える状況は問題ですね。



働いている女性の中には「家でずっと子育てするより、子どもを保育園にお願いして仕事をしているほうが楽」という実感もあるようです。子育てしながら適度に発散できる状況をつくっていくことも大切かもしれません。

A それを支える存在として夫も大きいですね。男の人が変わるチャンスは3回あるそうです。結婚した時と子どもが生まれた時と退職した時。でも、男性も若い時から仕事も家事も子育ても当たり前だったら、本人もどんなに楽だろうなあと思います。役割分担意識を持たないように男の子を育てることが早道かもしれませんね。

C 実際のところ、電気製品や家の管理・修繕など、男性も見えないところで協力していると思いますよ。それと、協力しようにも仕事で夜遅くには帰れないという男性が多いんじゃないでしょうか。休日は疲れているのもあるし、次の仕事の英気を養いたいというのがありますよ。

ところで、職場に制度が整っていても女性が辞めるのはなぜでしょう。やる気のある人も退職していきますか。

D やる気はあっても男性についていく傾向はありますから。例えば相手が海外勤務や県外勤務であれば、辞めていかざるをえない。男性の方が2つ・3つ年上の場合が多いので収入が良くて地位もある、だから女性のほうが辞めてついていく、となるようです。制度は利用され、不備を指摘されてより良くなっていくものだと思います。誰かが仕事と子育ての両立に挑戦してくれればいいのですが。もちろん周りの環境もあると思います。他社の話ですが、4人女性社員が

いて次々に結婚し産休を取り、全員に2人以上子どもがいるそうです。結婚や出産で辞めるというムードが全然ない職場もあるんですね。そういうふうには1人でも2人でもやっていければ、後に続く人も出てきて、うまくいくのではないのでしょうか。

B いいモデルがいると良いのですが、無理していいモデルをしようとしても、疲れきってしまいますよね。

A お母さんたちが疲れているのは、自分一人ですごく頑張ってしまうからでしょうね。

男性にもそういう女性を支えるパートナーになってほしいものです。Bさんが子どもを作らない二番目の理由として様々な外的要因があったと言われましたが、もしこうだったら欲しいと思ったかもしれないというものがありますか。

B やはり、いきいきと仕事と子育てを両立しているのが当たり前になれば、それと自分の仕事がある程度確立していればというのがあったと思います。

高齢になった時の生活設計についてはどうお考えですか。

B たぶん寂しいでしょうね。皆さんもお子さんに頼ろうとは思っていないと思いますが、精神的な支えとか、ちょっとした手助けという点では子どもが一番だと思うので。経済的な面だけでもと準備しているつもりです。高齢社会を乗り切っていくためにどうしたらいいか、自分なりに考えていきたいと思っています。

Aさんはどういった環境を整えればもう1人頑張ろうかなと思えるんでしょう。

A まず保育施設の充実。市のファミリー・サポート(*7ページ関連記事)を利用するとか。それと、自分がフルタイムで平等にやっていけるという自信、職場の環境が揃えば。

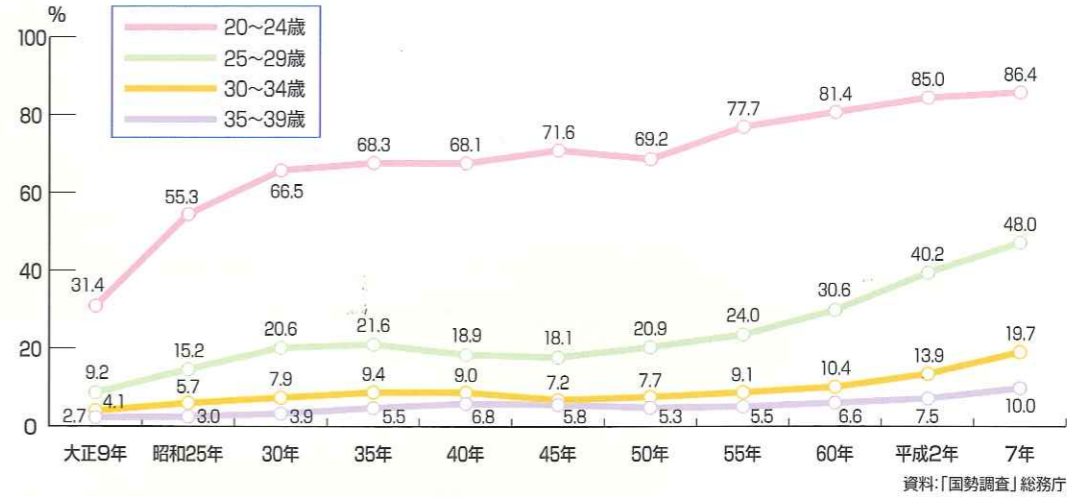
D 子育てと仕事の両立ができるよう、できるだけ環境整備していきたいと思っています。

いろいろなお考えをお聞きしました。何気ない暮らしの中でどういった問題があるのか、子どもを持たない、あるいは子どもを欲しい人が生めるようにする、一人ひとりの願いが実現していくにはどうしたらいいのかなど、あなたの少子化への考えのキーワードが発見できれば幸いです。

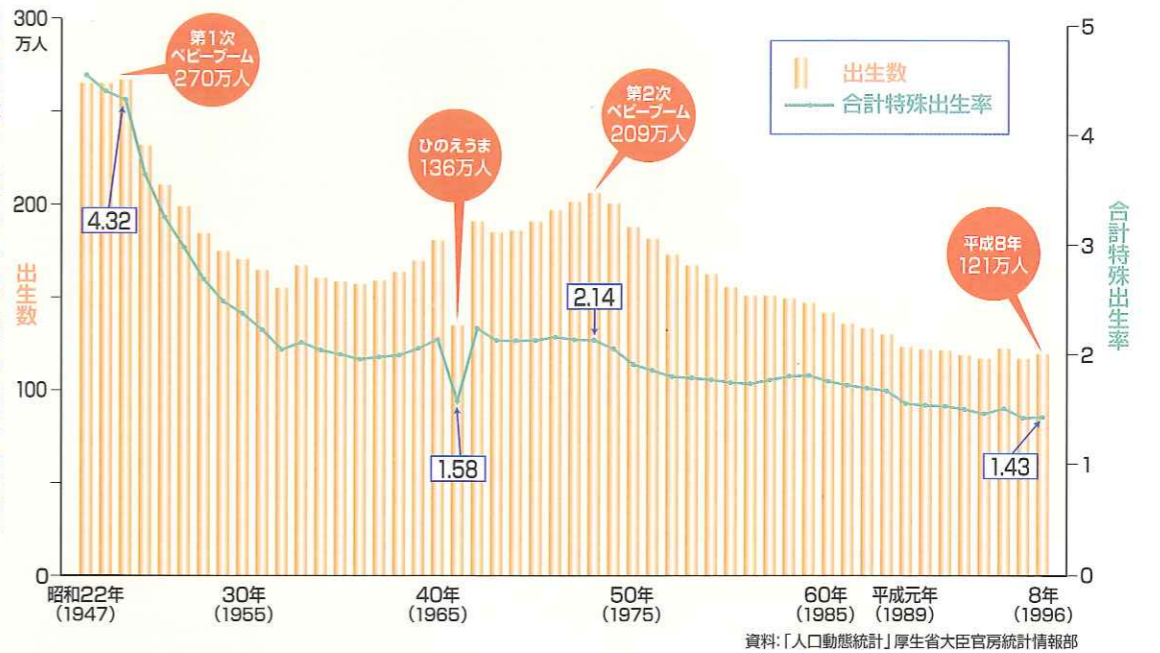


資料

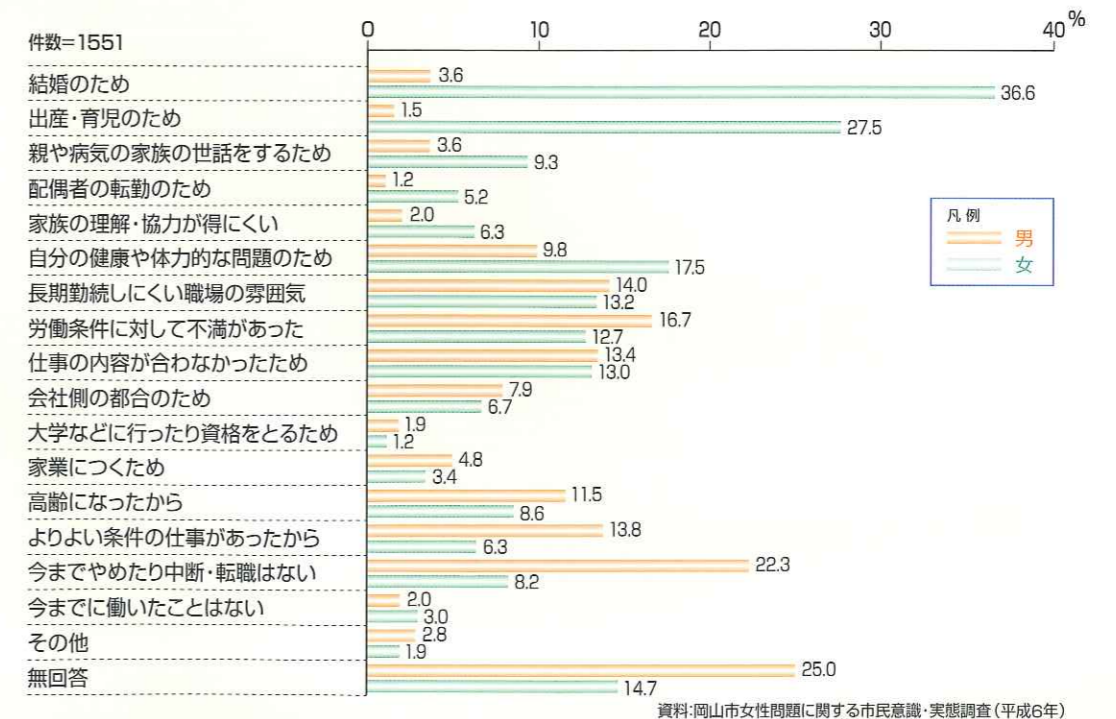
女性の年齢別未婚率の推移



出生数及び合計特殊出生率の推移



退職・中断・転職の理由





ご利用の
ポイントですよ 土日もオープンしています!!

岡山市女性情報プラザ

女性も男性も一人ひとりが充実した生涯をおくりたい。そのためにはあらゆる場面で男女が自立し、支え合い、性別を超えて能力や個性を発揮できる社会の実現が必要です。岡山市女性情報プラザは、女性問題に関する様々な情報を収集し、また、グループ・団体の情報交換や活動を支援します。

どんなところ?

- ★女性に関する情報や資料を展示します。図書やビデオは貸し出しもできます。
- ★小さなスペースですが、10人程度のミーティングができるコーナーもあります。
- ★ベビーベッドがあるので、小さなお子様連れでも大丈夫です。男性も女性もお気軽にお越しください。

場所はどこ?

- ★市役所の北側のビルの8階です。
- ★駐車場は市役所南側の市営駐車場をご利用ください。
- ★JR岡山駅から南へ徒歩15分です。
- ★最寄りのバス停は「大供」「市役所前」などです。



愛称が 決まりました! かがやきプラザ

女性も男性も気軽に立ち寄れる岡山市女性情報プラザをめざして、「親しみやすい愛称」募集にたくさんのご応募ありがとうございました。21歳～93歳まで66名の方からご応募いただきました。その中から、市内国富の姫井恵美子さんの作品「かがやきプラザ」が愛称に決定しました。「これからの女性(男性も)は情報プラザで可能性をのばし、みがきをかけ、輝くように」という意味が込められています。皆さん、どんどんご利用ください。

どんな資料があるの?

- ★女性に関する図書・雑誌・ビデオ
…ビデオの試写ができます。
- ★岡山市の発行する資料
…岡山市の統計や総合計画、各種お知らせ、公民館やふれあいセンターの資料があります。
- ★全国の自治体や行政機関の発行する資料
…他都市の情報誌や国の発行した資料があります。
- ★市内女性グループ・団体からの提供資料
…チラシを自由に貼れるボードがあります。



開館時間は?

- ★朝9時から夕方5時まで開いています。
- ★お休みは日曜日・月曜日、祝祭日、年末年始です。

お問い合わせは…

かがやきプラザ(岡山市女性情報プラザ)
岡山市大供1-2-1 磯村ビル8階 TEL・FAX 086-225-0863

もっと女性の市政への参画を! —— 岡山市女性議会について ——

10月19日(月)に開催される「岡山市女性議会」に向けて、公募参加の54名の「女性議員」さんが、研修に取り組んでいます。

少子・高齢化、技術革新、情報化、国際化等、社会の急速な変化は、女性の生き方の意識を変える要因となり、その結果、仕事や社会活動への参画、主体的なライフスタイルの設計等、近年、様々な形で自己実現を図ろうとする女性が増えてきています。

しかし、我が国では、公的分野でも、女性の政策・方針決定の場への参画は、大変遅れた状態であり、まだまだ不十分な状況にあります。

こうしたことから、市では、昨年10月に開催した「日本女性会議'97おかやま」の成果を踏まえ、住民自治の基本である市議会の場を体験することにより、女性の政治への関心をより高めるとともに、一層市政への参画を推進するため「岡山市女性議会」を開催します。

岡山市における各種審議会等への女性の参画・登用状況

| 調査年度 | H2 | H3 | H4 | H5 | H6 | H7 | H8 | H9 | H10 |
|--------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 審議会等総数 | 85 | 82 | 91 | 88 | 102 | 105 | 98 | 101 | 98 |
| 女性を含む審議会等の数 | 56 | 57 | 66 | 68 | 79 | 86 | 83 | 84 | 84 |
| 委員数(人) | 1,369 | 1,358 | 1,498 | 1,528 | 1,849 | 2,061 | 1,360 | 1,395 | 1,247 |
| 女性委員数(人) | 179 | 179 | 245 | 278 | 359 | 406 | 276 | 301 | 294 |
| 女性の参画・登用率(%) | 13.1 | 13.2 | 16.4 | 18.2 | 19.4 | 19.7 | 20.3 | 21.6 | 23.6 |

◆◆ 女性国会議員の割合 (1997年11月20日現在) ◆◆

| 日本の割合 | 外国の割合 |
|---------------|---------------------------------|
| 衆議院議員 (4.8%) | 世界第1位 スウェーデン (40.4%) |
| 参議院議員 (14.3%) | 第2位 ノルウェー (36.4%) |
| | フィンランド、デンマーク、オランダの各国も30%を越えている。 |

これからの男性の生き方を考える —— 男性ルネッサンス講座 ——

晩婚化が進み、少子・高齢社会といわれ、女性と家族をめぐる意識や行動が変化してきています。今、何が起り、女性はどう変わろうとしているのでしょうか。この講座は、男性が女性問題に対する理解を深めるとともに、男性も女性も共に個性を尊重しながら、多様な生き方を考えていくきっかけとなることをめざしています。★開講は平成10年度下半期の予定です。詳しくは「市民のひろば」でお知らせします。

働く女性の子育てを応援します —— ファミリー・サポート・センター事業 ——

働く女性が仕事と育児を両立できるように、登録会員同士で育児支援ネットワークをつくりまします。

岡山ファミリー・サポート・センターへ
☎(086) 227-2525

1時間700円(平日7:00~19:00)
その他は900円
※援助を依頼した人が応援してくれた人に支払います。

残業で保育園のお迎えに間に合わない! そんな時
学童保育の終了後、家に一人で留守番は心配! こんな時

あなたの学習を応援します! —— 男女共同参画社会学習推進事業 ——

皆さんの学習会に講師を派遣します。

参加者 20人以上(岡山市在住・在勤)

内容 男女共同参画社会の実現に役立つと考えられる学習会

経費 講師等の謝礼金を助成します

★事前にご相談ください。

一人で悩んでいませんか? —— 女性のための特別相談事業 ——

家庭や地域、職場のことで悩んでいませんか。女性の専門家(弁護士、カウンセラーなど)が悩みを相談を受けます。

日時 5月・7月・9月・11月・1月・3月の第3木曜日
15時~18時

会場 西川アイプラザ4階会議室

申込方法 「市民のひろば」に掲載します。

参画する力を身につけるために —— 第4期岡山市女性大学 ——

期間 平成10年10月~平成11年9月
第1・第3日曜日の10時~15時、全48回

会場 北ふれあいセンター

定員 30人 受講料 8,000円

女性史や自己表現トレーニング、行政、地域、情報化等総合的な学習を行い、研究レポートを作成し、女性リーダーとしての能力を育成します。

▲第一期・二期・三期 岡山市女性大学 自主研究レポート集

エンゼルプラン

～子育て支援のための施策の基本的方向について～

一人の女性が一生に生む子どもの数、合計特殊出生率が下がり続け、少子化問題が一層深刻化する中で、子育て支援対策は、国や地方公共団体をはじめ、企業・職場や地域社会を含めた社会全体として取り組むべき課題となってきています。

「エンゼルプラン」は、厚生・文部・労働・建設の4省により平成7年度から概ね10年間に取り組むべき子育て支援のための施策の基本的方向についてまとめられており、男女共同参画社会の実現にむけての施策も数多く取り入れられている総合計画です。

★「エンゼルプラン」の基本的視点

- ① 子どもを持ちたい人が、安心して出産や育児ができるような環境の整備
- ② 家庭における子育てを支援するため、あらゆる社会の構成メンバーが協力していくシステムを構築
- ③ 子育て支援の施策の中では、子どもの利益を最大限尊重

★「エンゼルプラン」の重点施策

- ① 子育てと仕事の両立支援の推進
- ② 家庭における子育て支援
- ③ 子育てのための住宅及び生活環境の整備
- ④ ゆとりある教育の実現と健全育成の推進
- ⑤ 子育てコストの軽減

編集委員紹介



私がかつて経てきた社会は、お茶汲み、コピーとり、結婚退社が当たり前でした。それがヘンだと気づきながらもどうすることもしなかった私に、以来20年近くたってこんなすてきな仕事がいきました。家事も子育てもおしゃれも食べ歩きもみんな好き。だからいろんなことをして楽し

みたい。好奇心旺盛な輝きの40代を送りたいと願う、根はいたって古典的な主婦です。

谷本 淑恵



今までの社会構造がいろんな所で崩れている今、私たちの日常生活である足元に目を移せば、「気づけば」「意識が変われば」改善されることがいろいろあるはず!女も男も無理しないで自分らしく生きられるきっかけづくり情報誌デュオが、ひとりでも多くの方の目にとまり、女性はもちろん男性にも共感をもって読んでもらえたらうれしい…。行政情報誌をできるだけソフトに、わかりやすい表現で「気づき」を発信したいと思います。

岡田 富子



こんにちは!一般ピープルの春木です。毎日の生活での「ちょっとヘン?」の数々が、ここ何年かの学習で、なぜヘンなのかきちんと気づき、伝える言葉を教わりました。とはいえまだまだ発展途上ジェンダー初心者です。これからは更に知識を修得し編集委員みんなとエンパワーし

ていき、そして発行が待ち遠しくなるような「DUO」の企画・編集と、はりきっていきたいです。

春木 香里



今回の特集は「少子化」ということでしたが、私たちの世代より若い男性は、「仕事が第一」というかつての高度成長期の父親像とは違ってきているように思います。この「DUO」は、男女共同参画社会の実現をめざす情報誌ということなので、唯一の男性編集委員として、同性の側の立場や考えも積極的に

とりあげていきたいと考えています。そして文字通り男女共同参画社会の実現の一助になれば幸いです。男性の読者の方のご意見をお待ちしています。

高橋 直哉



身近な生活の場にも「何かおかしい」「何か違っている」と思うことがよくあります。考えてみて少しでも変えなくてはいけないと思います。男性も女性も一緒に考えるテーマを提供できるような企画をして学びたいと思います。

中桐 美和子

編集後記

新編集委員体制になってはじめてのDUOが完成しました。少しモデル・チェンジしたDUOはいかがだったでしょうか。

今回は「少子化」をテーマにいろいろな方のご意見をお聞きしました。「生む人」、「生まない人」それぞれの選択をとおして、様々な生き方が見えてきたような気がします。個人が、各自の望む人生を歩めるように、そしてそれが皆の幸福につながるようになるためにはどうしたらいいのか考えるきっかけになればと思っています。

男女が対等のパートナーとして認め合い、それぞれの生き方を尊重する社会・男女共同参画社会の実現をめざして、さらに充実した情報誌を皆さんとともに作っていききたいと思います。ご意見・ご感想をお寄せください。

● 本誌ご希望の方は女性政策課へ